2022年 新春号

WA!

VOL.89

L'hôpital KYOWA

「生活」と「人生」

特定医療法人共和会 理事長
共和病院 院長　山本 直彦

明けましておめでとうございます。今、この原稿を書いている2021年12月はじめの時点では、愛知県の新規感染者数はわずか数名という状況でありますが、年が明け、皆さんがこの新年号を読まれる頃はどのような感染状況になっているのでしょうか？

2019年の12月に中国で発生したCOVID-19は、日本では2021年８月には第５波の大きな感染爆発を来しました。幸い当病院や関連施設では職員はじめ皆様の理解と努力の甲斐あって、クラスターの発生もなく今日に至っております。COVID-19によるパンデミックは世界のあらゆる分野に大きな変革、差別や偏見、分断、不寛容などをもたらしていますが、中世のペスト禍があった670年前とコロナ禍にある現在の人間行動は驚くほど似通っていることに驚かされます。現代文明も感染症によるパンデミックにより、いとも簡単に日常生活が崩壊するものであることを知らされました。

遠藤周作没後24年になる2020年、未発表原稿「影に対して」が発見されました。安定した「生活」を重視するサラリーマンの父親と、バイオリニストとして高い理想を求めて「人生」を燃焼させようと、日々練習に明け暮れた母親。やがて両親は離婚し、周作は母と別れ、父と暮らす中で繰り返し煩悶した心の葛藤を描いた私小説です。息子の将来に対し、「生活」を優先し、強要する父に嫌悪感を抱き、「人生」に命を賭け離婚後に亡くなった母に心酔し、小説家を志した周作は、その後自ら病に倒れる中で寛容の心を抱き、憎悪していた父を赦すことになります。人は禍の中にあって、排除の論理に走るのか、反対に謙虚に自らの弱さを見つめ、自分が最も憎む存在を認め、寛容の心で赦す事ができるのか、我々に突きつけられたテーマでもあります。

このコロナ禍で新たに見えてきたものもあれば、失ったものも多くあります。先ずは、経済を回し、早く日常を取り戻す事が優先されますが、安全なアスファルトの道を歩き続けるのか、それとも、振り返れば自分の足跡が残る歩きにくい海の砂浜を行くのか、当たり前の「生活」の大切さと、志ある「人生」の尊さ、この２つの道が互いにせめぎ合いながら、私達は「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を生きていくことになります。今回のコロナ禍を体験した事によって、「生活」と「人生」の調和をはかりながら、地域医療に貢献していきたいと思っています。

日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

病院機能評価を受審し更新しました。

当院は2021年９月に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価3rdG（Ver.2.0）の更新審査を受審しました。2000年の認定から５年ごとに審査を受けていますが、昨年の新型コロナウイルスの影響で１年延期での受審となりました。

病院機能評価とは、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的・科学的・専門的な見地から評価をするものです。評価項目は「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」にわかれています。前回の更新の際に指摘された事項の見直しを中心に、各部署が横断的な質改善活動に取り組んでまいりました。

受審日当日は４人の調査員（サーベイヤー）が来院し、実際に精神科病棟、内科病棟、外来、検査室など、院内の各部署を訪問し、評価項目に沿った調査が２日間かけて行われました。２日目の講評では当院の理念である「優しい医療・楽しい職場」に職員ひとり一人が誇りを持ち、様々な活動を通じて病院内外で実践していることについて高い評価を受けました。地域の皆様に向けた「地域医療フォーラム」や福祉活動などもその一環です。その他患者様の受け入れ、治療、退院支援について評価するケアプロセスでは、当院の進めているリカバリーに視点を置いた退院支援に医師をはじめとした多職種チームが積極的にコミュニケーションをとり協働している点が評価されました。中間評価の段階では病棟環境や医療事務、設備、情報システム等様々な項目で前回を上回る評価を頂くことができ、職員の努力が認められたものと感じています。職員が患者様とご家族に寄り添い日々業務に勤しんできた結果が評価され、患者様とそのご家族へ、より良質な医療の提供に繋がっていることは私たちの働く励みとなり、とてもうれしく思います。

しかし、これからも地域の皆様に信頼される病院であるため、まだまだ改善の余地はあるとも感じています。皆様からもお気づきの事がありましたら、遠慮なくスタッフにお申し出ください。また外来や病棟には、「ふれあいポスト」という皆様のご意見を伺う投書箱が設置してありますので、些細なことでも教えて頂き、これからも良質な医療の提供に努めていきたいと思います。

機能評価受審プロジェクトチーム　森田 智也

全担当者による挨拶

当院のプレゼンテーション

病棟内の審査

当院は2000年に、愛知県で22番目、知多地区で最初の認定病院となり、その後５年ごとに更新を受けています。

認定種別：
精神科病院(200床以上)、慢性期病院

認定病院数：
2054（全病院8227のうち）

患者様と共に歩いていく

「リカバリー」という言葉をご存じでしょうか。和訳すると「回復」という意味になります。私達の目指すリカバリーとは、病気による制限があっても充実した人生を送ること、人生の新しい意味や目的をみつけることで、単に病気がよくなる事とは少し違います。当院内でリカバリー志向をより浸透させる事を目的として、リカバリー支援委員会があります。毎月委員が事例を持ち寄り、リカバリー志向に基づいた話し合いを重ねつつ、院内向けの勉強会として今年度「リカバリーフェス」を開催するなど、職員がリカバリー的な考えに触れる機会を作る活動を続けています。

リカバリーフェス

私たち医療関係者は、当事者の方の力になりたい、という思いから、つい「こうした方が良い。この治療が必要では。」と、私たちから見た正しい方法を提案してしまいがちです。そして、スムーズに進まないと焦りを感じてしまいます。そんな時、人生の舵取りをする権利は、あくまでもその人自身にあるという感覚を持ち、向かう方向も進むタイミングも当事者の方にお任せしてサポートする、という姿勢でいたいと考えています。

事例検討

リカバリーは旅路であり、どこまでも続いていきます。私たちはその道を、景色を楽しみながら、時に回り道したり後戻りしながら共に歩いていく。そんな存在になれるよう、この活動を続けていきたいと思います。

リカバリー支援委員会　委員長　丹羽 俊樹

専門チーム紹介

PBST（積極的行動支援チーム）の一員として

PBST（Positive Behavior Supports Team:積極的行動支援チーム）は2019年11月に当院で発足しました。障害特性（社会性・コミュニケーション・想像力・感覚など）のある方々は、日常的に『わからない』『伝わらない』経験を積み重ね、不安や緊張が上手く伝えられずに自傷や他害といった著しい行動障害の状態になる場合があります。PBSTは、そういった方々の障害特性を評価し、個別の支援計画を立てたり、支援者に対して障害特性や支援方法の理解を進めるなど、知識と経験を活かし専門的に関わっていきます。メンバーは、強度行動障害支援者養成研修を受講した看護師、公認心理師、作業療法士、精神保健福祉士の多職種メンバーで構成されています。精神科各病棟およびデイケアセンターの現場とを繋ぐ（リンクさせる）看護師のリンクナースを窓口に、課題の解決にあたっています。

チーム発足から2年目となる今年度は、共和会職員に向けての全5回シリーズの研修を開催することで行動障害への理解の促進を目指すとともに、事例検討会を毎月開催し、院内での行動障害支援の強化に努めています。

私はこのチームに昨年10月より加入しました。振り返れば、永く精神科で勤務する中で行動障害の状態にある方の支援に携わる機会は幾度もありました。そのたびに私は「患者様の思いに寄り添って」「患者様が地域で困らないように」と支援者としてできることを考えてきました。この思いは間違っていなかったと思いますが、PBSTの一員となった今では「言語コミュニケーションの苦手な方の思いを本当に汲み取れているのだろうか？」「今の環境は患者様の特性に合ったものなのだろうか？」と患者様の視点で自問することが増えたように思います。

'私たち支援者が患者様への配慮の必要性や方法を正しく理解し、強みを最大限に活かすことで、障害特性を持つ方はもちろん支援者やご家族も地域社会で安心して生活できる' そんな将来を目指し、チーム活動を進めていきたいと考えています。

PBST作業療法士　藤松 昌子

チームメンバー

リンクナース

編集後記

明けましておめでとうございます。まだ様々な不安はありますが、日常生活を取り戻しつつあります。

何気なく過ごしていた日常が、どれほど大切なものであったかを自覚した方は少なくないでしょう。

さて今年の風水ラッキーカラーのひとつ、周りの人を元気にしてくれる山吹色で今年の紙面を彩りたいと思います。辛いと感じる中でも何か得るものはあるはず。良い年になりますよう、それぞれができることを実践していきたいと思います。

広報誌委員会　大藪 朋子

表紙の写真：坂口 晃平 様

INFORMATION

当院副院長の松下直美さんが、多年の看護業務における向上と発展への貢献に対して、愛知県より看護功労者表彰を受けました。

表彰を受けた松下さんが、
大府市長を表敬訪問しました。

松下さんから一言

思いもよらず、表彰を頂きましてありがとうございます。
この度の受賞は、支えてくれた共和会職員に代わって頂いたと思っております。
精神科病院だからこそ、何よりも患者さんの人権を守る視点に立って行動し、理念である「優しい医療・楽しい職場」を追求し続けたいと思います。

子どもたちの絵で飾り付け

当院は、外来の診察時間や職員の出勤時間に合わせて、共和駅と当院を往来する送迎車を運行しています。
その送迎車には、当院保育所のお子さんの絵画が飾られています。
シルバーボデーが一気に賑やかになり、送迎車をご利用されるみなさまを和ませています。ご利用されるときやA館正面玄関に駐車している際は、ぜひご覧ください。
ほんわかした気持ちになりますよ。

★ラジオ番組★

毎月 第2月曜日19:00～19:30

MID-FM 76.1

ラジオパーソナリティー
共和病院 副院長　松下 直美

こころの病を持たれている方をはじめとする皆さまに温かいメッセージをお送りします。是非お聞きください。

おもいやり共和のキラキラチアナイト

当院HPから過去の放送分も聴くことができます。

お知らせ

3月5日(土)　第13回 共和会研究発表会を開催します。
詳細が決まりしだい当法人HP等でお知らせいたします。

共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

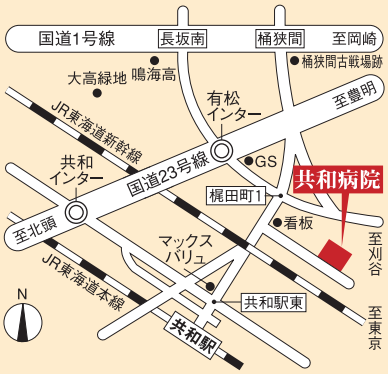
- 職員のチームワークと創造性が高められる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が皆様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切にして、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会
共和病院
愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科
精神科・心療内科・循環器内科・肛門外科
放射線科・リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)
URL http://www.kyowa.or.jp/